

学校名	伊達市立堰本小学校	校長名	丹治 睦雄		
住 所	伊達市梁川町新田字南荒野 3 3	児童生徒数	1 2 8	学級数	8
T E L	024-577-0323	ホームページアドレス	<a href="http://www.schoolweb.ne.jp/date/sekimoto-e/">http://www.schoolweb.ne.jp/date/sekimoto-e/</a>		

## 習熟度別学習を取り入れ、児童の主体的な学びを引き出す授業づくり

### 1 少人数指導の意図

本校の6年生は35名で普段から2クラスの少人数学級で指導しているが、算数科においては特に個人差が大きいため、昨年度から教務主任が加わり2学級を3グループに分ける習熟度によるコース別学習を実施している。3グループに分けることで、個に応じた指導が充実し、学習内容の定着も良好である。今年度はさらに児童一人一人の主体的な学びを引き出すことを目指して取り組んでいる。

### 2 実践の概要（6年 算数科「円の面積」）

#### (1) 習熟度によるコース別学習の進め方について

児童の希望や自己診断テストの結果等により、次の3コースを設定している。

- ・じっくりコース（基礎・基本を身に付ける）
- ・すいすいコース（学習内容の理解を確実にする）
- ・どんどんコース（多くの問題に取り組み、発展的な学習にも挑戦する）

#### (2) 授業の実際

##### ① 本時のねらい（本時4／7）

- ・円を含む複合図形の面積の求め方を考えることができる。

##### ② 「じっくりコース」の取組

複合図形の面積を求め方を考える手がかりとして、実物や正方形、おうぎ形、直角二等辺三角形などの具体物を用意し、取り組ませた。具体物により、おうぎ形から直角二等辺三角形の面積を引くなどの方法に気付くことができた。また、友達に求め方を説明する際に具体物を用いる姿が見られた。



##### ③ 「すいすいコース」の取組

正方形、円の4分の1のおうぎ形、直角二等辺三角形の面積の求め方を全員で確認し、見通しをもたせてから自力解決に入った。自力解決後は、4人程度の小グループで互いの求め方を交流した。人数が少ないことや積極的に発言する児童が「どんどんコース」に行っていることもあり、児童は自分なりの言葉で活発に考えを交流することができた。

##### ④ 「どんどんコース」の取組

既習の面積の求め方を組み合わせると面積が求められることに気付き、主体的に自力解決することができた。また、解決方法も一通りでなく複数考えることができていた。その後の学び合いでは、互いの考えを分かりやすく説明し、それぞれの違いやよさに気付くことができた。さらに、他のコースでは取り組めなかった練習問題にも意欲的に取り組んだ。



### 3 実践の成果と課題

- 習熟度によるコース別学習にしたことで、より個に応じた指導を工夫することができた。既習事項が定着していない児童は復習しながらじっくり取り組み、上位の児童は難易度の高い問題に意欲的に取り組む姿が見られた。
- 小グループでの学び合いでは、力の差が大きくないため、自由に話し合える雰囲気が出てきた。そのため、共に学び合うことの楽しさを感じる児童が増えてきた。
- 児童の主体的な学びを十分に引き出すためには、少人数のよさを生かし、予習など家庭学習への取組についても、個に応じた支援や指導を工夫していく必要がある。「予習→授業→復習」のサイクルを身に付けさせたい。